学校の思いを伝える学校だよりを！それが読者とのコミュニケーションを生む

●宮城県白石市立福岡中学校　大沼常次教頭
（応募時は蔵王町立宮中学校に勤務）

過去最高の676点の応募作品が寄せられた第5回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール。最優秀賞に次ぐ優秀賞を受賞した大沼先生に、喜びの声と学校だよりに対する考え方を伺いました。

――学校だよりを発行する際、最も大事にしている点は？

学校だよりとは開かれた学校を実現するための、コミュニケーションツール。一般には、行事や事実の羅列に終始したものが多いのですが、むしろ私は学校の思い、考え方を明瞭に表現する、広報紙的な存在であるべきと考えています。

たとえ、学校にとって都合の悪い問題であっても、積極的に情報発信する姿勢が必要でしょう。むしろ、課題があれば、どう改善していくか、読者と一緒に考えていく。そのために、しっかりと問題提起することが大事だと思います。それが結局は学校の信頼を高める結果になると思います。

――読者の反応、反響で印象に残っているものは？

雨の日になると、大勢の保護者が、生徒を自動車で送り迎えします。これは子どもたちにとっていいことなのか。本当の愛情なのかと、以前から疑問を感じていました。それをたよりで正直に書いたときのことです。ご批判をいただくかと思ったら、「先生、私も同じ意見です」との意見をいただきました。とても励みになりました。

――子どもたちが紙面によく登場しますね。

私たち教員の声だけ載っていても味気ないし、魅力に欠けます。だから、子どもたちの活躍、声を数多く載せたいのです。

――見出しの付け方にもこだわりがあるように思いますが。

校内を見渡しても、常に目新しいことが起きるとは限りません。たとえ地味な出来事でも、読者に驚きを感じさせるような記事構成にしたい。まず、読者がまっさきに目にするのは、見出しですから、気を遣います。

心がけているのは、単に「がんばりました」という当たり障りのない見出しはつけないこと。「やったぞ！○○」など、少し大げさでも人の目を引くような、短いフレーズの見出しをつけるようにしています。

――今回の受賞でどんな反応がありましたか？

申し上げにくいのですが、応募動機は、学校の図書の充実のための副賞（図書カード）狙い。ただ、そうはいっても、まさか受賞できるはずがないと、宝くじを買うような軽い気持ちで応募したので、本当に驚きました。受賞後は地元の新聞にまで掲載され、多くの人からお祝いの言葉をいただきました。うれしいのですが、今後を考えると、少々プレッシャーですね（笑）。

受賞作品　学校だより「桃華」（蔵王町立宮中学校）

桃華
玄関ホールでの始業式
ここはオペラ座か 124人を収容
5日間の農業体験
修学旅行は5つのセールスポイント
1年生「白島神社」探訪
新人大会は9月27日(土)

■制作データ■
- 紙面のサイズ　A3　両面
- 毎号のページ数　表裏2ページ
- 学区内地域（全世帯）はモノクロ、町内小中学校・公的施設はカラー
- 発行部数　290部
- 発行間隔　基本的に月1回（臨時に号外も）
- 配布対象　学区内全世帯（行政区の班ごとに回覧）、保護者、町内小中学校、町教育委員会、公民館等の公的施設